

「落語と私」 その貳拾

三代目 橘ノ百圓

7月号の前文に書きました様に、今回は、6月28日に無事終える事が出来ました「木材会館拾周年記念落語会」の結果報告と反省点を書く事と致します。先ず、今回の開催にあたりまして、企画、計画、実行と、お骨折り頂きました、渡辺理事長を始めと致しまして、理事の皆さん並びに事務局の方々に、心より篤くお礼を申し上げます。この落語会の企画の連絡を受けましたのが、去年の9月の末で、常務理事の岡田さんからでした。「来年の7月5日に、拾周年の記念祝賀会を考えているので、その1週間前の6月28日に落語会を企画、誰か良い人を選んでもらいたい。予算は多く付けているので、そちらの希望に副えらると思ふ」と、実に有難いお言葉でした。そこで私の頭に浮びましたのが、去年の6月に青年部主催の、第2回落語会の時に連絡を取りました、柳家喬太郎師匠です。その時は師匠も忙しくて、出演は叶いませんでしたが、電話を切る時に「先輩、私携帯を教えますので、今度は、そこに連絡ください」。この言葉を聞きまして、これは、体が空いていれば、出演しても良いですヨ。そう捉えたのです。そこで、岡田さんから電話を頂いて直ぐに！喬太郎師の携帯に連絡したのですが、やはり忙しくて、留守番電話でした。そこで「師匠、ご無沙汰してます。小疇です。来年の6月28日、新木場の木材会館で、午後6時から記念落語会の企画が在りますので、出演してください。出演料はン拾萬で、無論、師匠が真打です。ご都合を聞かせてください」。少し不安は在りましたが、その翌日、師匠から電話が入りまして「承知しました。喜んで出演致します」。この瞬間、ヤッターですネ！この時点で、闇営業が成立した訳です。「細かい話はまた連絡を入れます」と言って電話を切りました。その翌朝に、岡田さんに電話をしまして「喬太郎さんからOKを取りましたヨ、出演料はン拾萬です。絶対に安いですヨ。(チョイと自慢気味な声だったと思います)、後の色物と前座が決まりましたら又、連絡します。今回は、私は出演しなくても良いですよネ」と言いました処、岡田さんから「イヤ駄目だヨ。小疇さんも出てくれヨ」と言われまして、有難い事だと頭が下りました。色物は、俗曲の檜山うめ吉さん、これは、彼女の定席出演を調べて、直接楽屋に顔を出して、お願いしようと思ったのですが、何ンとなく日が経ってしまい、直ぐには決まりませんでした。そんな中、毎年12月初旬に行なう、落研の先輩との「二人会」のお客様の中に後輩がおりまして、偶然にも、うめ吉さんの話が出ましたので、彼に新木場落語会の話しをいたしました処、うめ吉さんの岡山時代の高校の先輩が、うめ吉さんとの太いパイプを持っていると言うのです。そこで「この場で直ぐ、その先輩に連絡してくれ！」とお願いしましたら、その場で電話をしてくれまして、10分ほど待ったら、これも快諾との事、持つべき者は、良い後輩だと思いました。そして、前座は、私の一門の現役の前座、馬ん次さんをお願いをと思ひ、師匠の三遊亭圓馬さんに電話をして、許可を取りました。馬ん次さんには、私からお願いを致しました。これで全員の顔が揃った訳です。年が明けまして、2月初旬に、記念落語会の1回目の打ち合せ会が在りまして、理事長、副理事長、常務理事と事務局長の7名と私で、出演順、各名称、捲りの確認と決定、その後の予定などを話しましたが、その段階で、会場は7階大ホールを使用する事も決まりました。4月には、高座の位置と高さ、出演者の動線と、

それに伴い、衝立の必要性、次第に細かい処まで話しが進む訳です。それから事務局では、パンフレットの素案を発注、作成、5月にも何ン度か組合で話し合いが有りまして、6月中旬に、舞台設定業者を交えての最終打ち合せ、この時は、金屏風の位置、演壇の組み方など熱の入った話し合いになりました。その間、申し込みの数が、320を超えましたとの嬉しい知らせが有りました。これは、事務局長の温かいお心遣いと感謝致します。その上、入場券、食事引換券のハガキの郵送他、大変な仕事量とお察し申し上げます。お疲れ様です。最終段階の6月26日に私の担当である、緋毛氈と高座布団を組合に届けて、当日待ちとなりました。いよいよ、28日、私は早目に会場に着き、喬太郎師匠他3名との待ち合せ時間より、早目に迎えに行きまして、予定通り全員揃って会場へご案内した訳です。受付は、まだ5時前から多くの、お客様で賑っておりまして、そんな中を出演者の皆さんを楽屋に案内を致しまして、理事長はじめ、それぞれの責任者の方々に紹介をしまして、大事な、出演料の受け渡し、これも源泉徴収に関しましては、大変に気を遣って頂き有難うございます。それが済みますと、皆さんと7階会場に行きまして、マイクの位置と音量テスト、出囃子CDの打ち合せ……。この間にはもう、お客様が入場して来まして、これは、滅多に見られない光景ですよ！そして、豊田常務理事による開会宣言と、渡辺理事長の短い挨拶、終わると豊田さんの馬ん次の紹介、この時、私が間違ってお囃子を流してしまいまして、深く反省しております。当日の各演目は、事務局で紹介すると思いますので、真打の喬太郎師匠の寸評ですが、長い世間話と愚痴話から、誰にでも解る古典の“紙入れ”を極品良く演じて、会場は爆笑に包まれました。後日談ですが、お客様のほとんどの方が、演芸も構成も良かったと褒めてくれますが、あの地雷也の天むす弁当がバカに評判が良かったです。私自身幾つかの反省点は在りますが、それは今後に活かすとして、この企画、実行に係った多くの方々と、ご来場頂きましたお客様に、深く感謝を致します。有難うございます。

